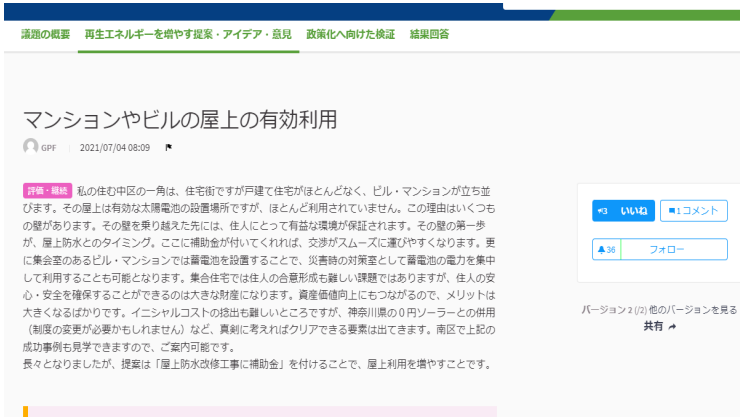
ハイブリッド型対話プラットフォームを活用した復興まちづくり活動の評価

愛媛大学社会共創学部
松村　暢彦

研究の背景

- 市民や行政、様々な利害関係者が合意形成を図る必要性が求められてきている。
- ICTの導入によって地域課題を解決しようとする試みが増えている。
- オンラインで多様な市民の意見を集め、議論を集約し、政策に結びつけていくための機能を有する市民参加型のオンラインツールが着目。



横浜みらい創生プラットフォーム

加古川市合意形成プラットフォーム

研究の背景

- アナログな市民参加プロセスよりも多くの人々に働きかけることができる。
- 市民の提案・投票が公式の施策過程に影響を与える機能まで導入しているプラットフォームは少ない。
- より市民の関心・参加を高めるには地域性を考慮したプラットフォームが必要

既往の研究

- 国内のDecidim（市民参加型プラットフォーム）導入例を比較（輿石・小泉ら（2022））
  - WS前後にDecidimの書き込みが増え、WSでの議論がDecidimでの議論に還元。
  - 日本におけるDecidim活用では共感する議論が多い（いいね機能）。
- 市民参加型プラットフォームを通じた熟議のプロセスや評価に関する研究が必要。

研究目的

- 平成30年7月豪雨の被災地域である西予市野村地区を対象に、オンライン対話とワークショップ対話を組み合わせたハイブリッド型対話プラットフォームを実装し、地域内外の多様な人々との対話を通して、復興まちづくりに関わる社会的対話や実践活動に及ぼす影響を検討する。

ケーススタディ地区

山鳥坂ダム
（計画）
（貯水量：2490万m³）

鹿野川ダム
（1958年）
貯水量：4820万m³

野村ダム
（1981年）
貯水量：1600万m³

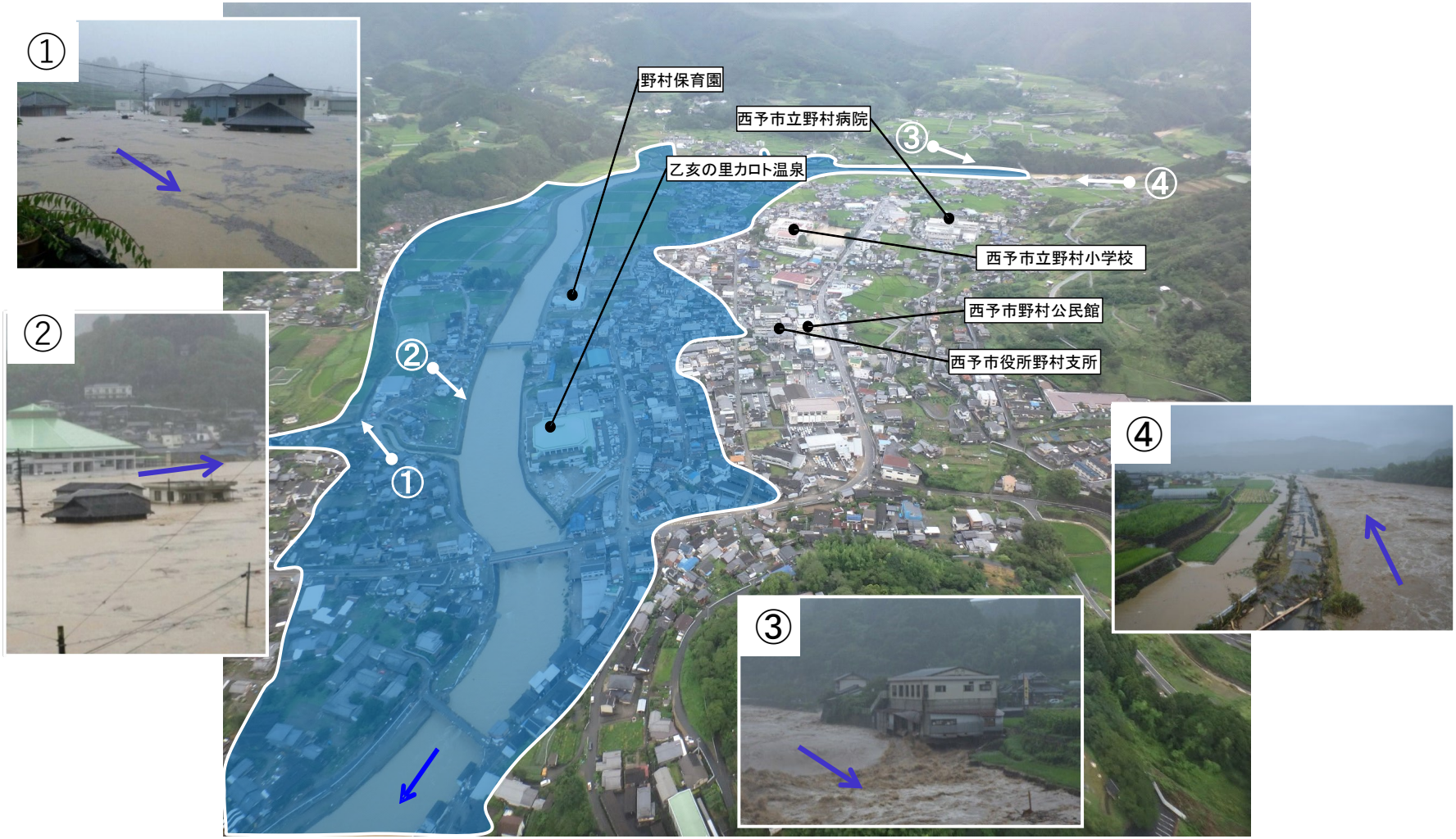
野村町野村地区

- 人口：4598人（R4.11）
- 乙亥大相撲の伝統
- シルクとミルクのまち
- 野村の住民主体のまちづくり

西予市の被害状況

人的被害（死者数）‥６名，罹災証明の受付･交付‥1367件

野村地区の浸水被害



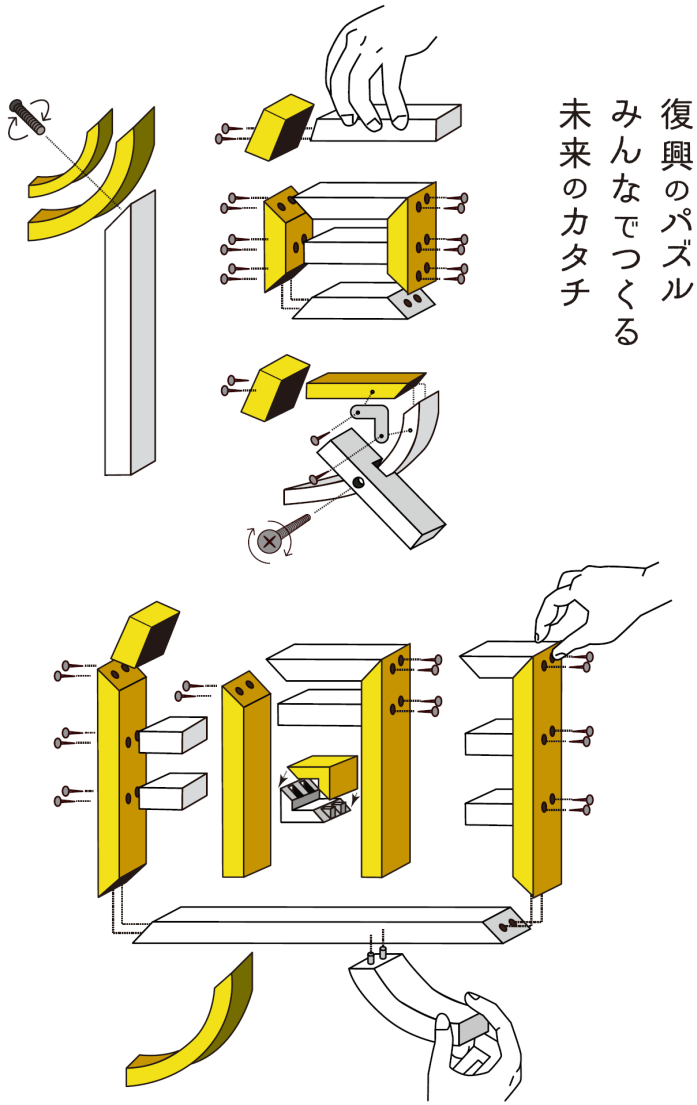
【国土交通省四国地方整備局資料より】愛媛大学　山本浩司先生　作成

西予市復興まちづくり計画
復興座談会

日時	地域	参加者数
18/11/19	明間	約50名
18/11/26	岩木	約35名
18/12/07	宇和	約50名
18/12/17	明浜	42名
18/12/18	城川	49名
18/12/19	三瓶	32名
19/01/09	野村	60名
19/01/16	野村町野村以外	12名
19/02/12	三瓶	30名
19/02/13	宇和	54名
19/02/14	明浜	22名
19/02/19	野村	77名
19/02/20	城川	74名
		のべ約587名

西予市復興まちづくり計画

復興のパズル
みんなでつくる
未来のカタチ



平成31年3月 西予市

野村復興デザインプロジェクト

- 基本的な考え方
  - 新たな魅力あるまちづくりを進める
  - 話し合いを深めながら、市民の視点でまちづくりを描く
  - 災害に強いまちづくりを実現する
- 野村地区の将来像を描く
  - **市民、行政、大学の協働により、アイディアを出し合うためのワークショップを開催**

のむら復興まちづくりデザインWSのこれまでの流れ（2019年～）

構想・計画

基本設計

実施設計

工事

完成

維持管理・活用

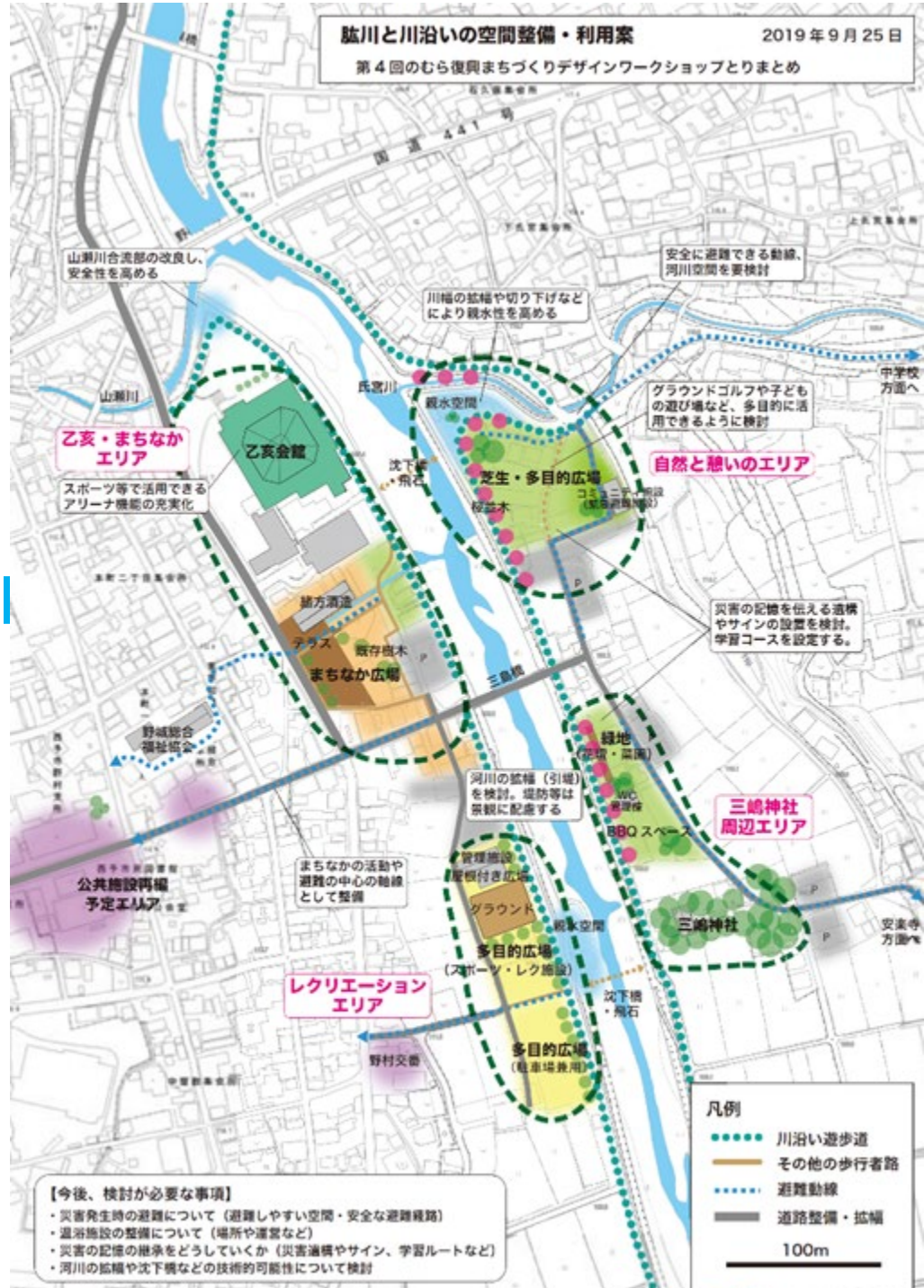
第1～第6回　構想・計画期　**第2期**

第7～第9回　基本設計期　**第3期**

第10～17回　実施設計・試行アクション期（右岸）
第18～21回　実施設計（左岸）　**第4期**

第22回～　利活用・維持管理期
（どいすこいパーク防災広場のオープニング企画を提案）　**第5期**

構想・計画


肱川と川沿いの空間整備・利用案
2019年9月25日
第4回のむら復興まちづくりデザインワークショップとりまとめ
国道441号
山瀬川合流部の改良し、安全性を高める
安全に避難できる動線、河川空間を要検討
川幅の拡幅や切り下げなどにより親水性を高める
中学校方面へ
グラウンドゴルフや子どもの遊び場など、多目的に活用できるように検討
乙亥・まちなかエリア
乙亥会館
スポーツ等で活用できるアリーナ機能の充実化
自然と憩いのエリア
芝生・多目的広場
桜並木
災害の記憶を伝える遺構やサインの設置を検討。学習コースを設定する。
まちなか広場
既存樹木
三島橋
緑地
河川の拡幅（引堤）を検討。堤防等は景観に配慮する
三嶋神社周辺エリア
BBQスペース
三嶋神社
公共施設再編予定エリア
まちなかの活動や避難の中心の軸線として整備
グラウンド
多目的広場
レクリエーションエリア
多目的広場
凡例
川沿い遊歩道
その他の歩行者路
避難動線
道路整備・拡幅
100m
【今後、検討が必要な事項】
・災害発生時の避難について（避難しやすい空間・安全な避難経路）
・温浴施設の整備について（場所や運営など）
・災害の記憶の継承をどうしていくか（災害遺構やサイン、学習ルートなど）
・河川の拡幅や沈下橋などの技術的可能性について検討

3. のむら復興まちづくりのめざすべき姿

第2期

3.2　のむら復興まちづくりの体系

目標像	施策体系
（１）肱川と共に生きる	1-1 肱川の河川改修
	1-2 河川沿いの魅力ある空間整備
	1-3 避難体制の強化
（２）野村の住民だけでなく、来訪者にとっても魅力的な商店街を創る	2-1 魅力ある店舗・商品の創出、ＰＲ強化
	2-2 憩い・集い、周遊を促す空間整備
	2-3 若者のチャレンジ等の支援
（３）「相撲文化」や「飲む村、のむら」等の野村の文化を守る	3-1 のむらブランドの復興、ＰＲ強化
	3-2 のむらの文化を伝える仕組みの構築
	3-3 のむらならではの魅力を活かし来訪者を呼び込む
（４）地域で支え合い、市民一人ひとりが活躍するまちを創る	4-1 野村の生活、文化を守るための移動手段の確保
	4-2 若者等の定住を促すための条件整備

基本設計

④

自然・憩いエリア
整備方針（「のむら復興まちづくり計画（案）」より）
肱川と氏宮川の合流地点に親水空間の形成を図るとともに、多目的に活用できる空間の整備等をめざす。
■イメージ
①
②
③
④
親水ゾーン
防災広場ゾーン
①
②利活用拠点ゾーン
遊びの広場ゾーン（学童向け）
遊びの広場ゾーン（幼児向け）
市道
自動車動線
歩行者・自転車動線
駐車場
駐輪場・駐輪スペース

第3期
河川沿い空
親水空間
※将来的な整備
防災広場
（ヘリポート）
遊びの広場
ネット遊具
かまどベンチ
トイレ
駐車場
駐輪スペース
林の広場
三嶋神社
今回の実施設計範囲
N
0 10 20 50 100(m)

維持管理・活用

第4期

公共空間の活用・維持管理の検討パターン

第4期

空間の主な利活用の主体の意見集約・提案

↓

ワークショップで色々な人の意見を集約

↓

WSで空間の利活用・維持管理活動のイメージの共有

空間の事前活用の企画

空間の設計への反映

空間の利活用の試行

工事

空間の利用・活用・維持管理活動

野村高校での検討（20年9月）

第10回WSでの検討（20年10月）

第11回WSでの検討（20年12月）

第12回WS（21年3月）
第13回WS（22年7月）

21年度~

23年度～

ワイドえひめ

被災地菜園 笑顔咲く

西予・野村高生 復興に力

西日本豪雨の浸水跡地に設けた菜園で、野村高校の生徒が育てたサツマイモを収穫する子ども

肱川沿いの浸水跡地 園児らと芋掘り体験会

西日本豪雨で被災した西予市野村地域中心部を活気づけようと、地元の野村高校の生徒が肱川沿いの菜園化に力を注いでいる。5月から育ててきたサツマイモが収穫期を迎え、このほど地元園児らを招き芋掘り体験会を開いた。生徒たちは「地域との関わりを深められた」と活動の手応えを感じている。

菜園化の取り組みは、2019年から実施する地域のワークショップで生徒が提案した。豪雨で浸水した肱川沿いの土地を特産品開発や農業体験などができる拠点にする計画の一環で、2、3年生8人が今春から実験的に野菜や花の栽培に取り組んでいる。

畑は東岸側の約2100平方㍍。5月にサツマイモとヒマワリを植栽したのを手始めに、10月上旬にはヒマワリが咲き終わった跡地にコスモスの種をまいた。

芋掘り体験会を開いた16日、地元の子どもや住民、ワークショップに参加する愛媛大生ら約50人を招待した。子どもたちは生徒らと一緒に大きく実ったサツマイモを次々と掘り起こしては大喜び。野村保育所の入船瑚雪ちゃん(5)は「おいしそうなお芋が取れた。またやりたい」と満足そうだった。

進行役を務めた野村高3年の上甲郁さん(18)は「笑顔があふれる時間になった」と充実感をにじませ「復興と活性化には地域の協力が不可欠。今後もイベント開催などで地域を盛り上げたい」と意欲をみせていた。

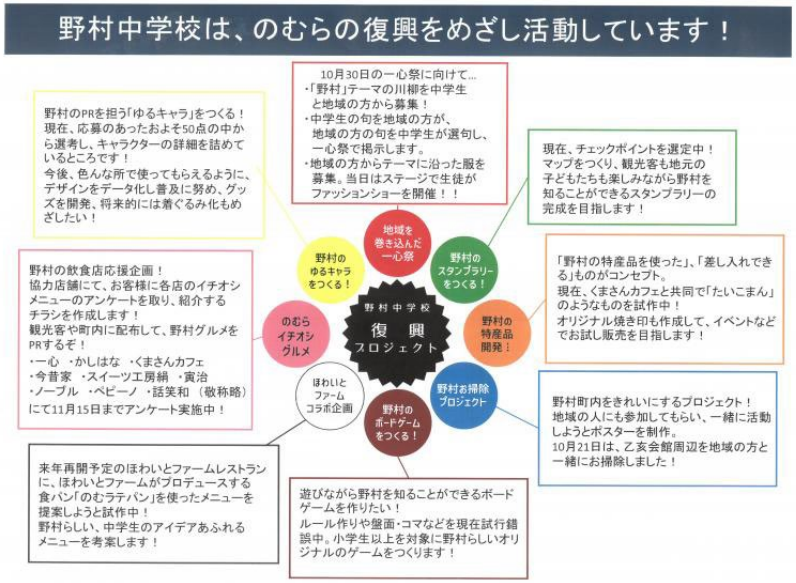
（山内拓郎）

西日本豪雨で浸水した肱川沿いの土地にコスモスの種をまく野村高校の生徒

WIDE EHIME

野村小学校・野村中学校の実践

- **野村小学校（防災学習）**
  - 防災を通したふるさと学習
- **野村中学校（復興プロジェクト）**
  - 野村中学校の生徒が「野村町の復興に貢献する」ために総合学習の時間を使って8つのテーマで復興に取り組んでいる。



野村中学校は、のむらの復興をめざし活動しています！

野村中学校
復興
プロジェクト

地域を巻き込んだ一心祭

10月30日の一心祭に向けて…
・「野村」テーマの川柳を中学生と地域の方から募集！
・中学生の句を地域の方が、地域の方の句を中学生が選句し、一心祭で掲示します。
・地域の方からテーマに沿った服を募集。当日はステージで生徒がファッションショーを開催！！

野村のゆるキャラをつくる！

野村のPRを担う「ゆるキャラ」をつくる！
現在、応募のあったおよそ50点の中から選考し、キャラクターの詳細を詰めているところです！
今後、色んな所で使ってもらえるように、デザインをデータ化し普及に努め、グッズを開発、将来的には着ぐるみ化もめざしたい！

野村のスタンプラリーをつくる！

現在、チェックポイントを選定中！
マップをつくり、観光客も地元の子どもたちも楽しみながら野村を知ることができるスタンプラリーの完成を目指します！

野村の特産品開発！

「野村の特産品を使った」、「差し入れできる」ものがコンセプト。
現在、くまさんカフェと共同で「たいこまん」のようなものを試作中！
オリジナル焼き印も作成して、イベントなどでお試し販売を目指します！

のむらイチオシグルメ

野村の飲食店応援企画！
協力店舗にて、お客様に各店のイチオシメニューのアンケートを取り、紹介するチラシを作成します！
観光客や町内に配布して、野村グルメをPRするぞ！
・一心　・かしはな　・くまさんカフェ
・今昔家　・スイーツ工房絹　・寅治
・ノーブル　・ペピーノ　・話笑和　（敬称略）
にて11月15日までアンケート実施中！

野村お掃除プロジェクト

野村町内をきれいにするプロジェクト！
地域の人にも参加してもらい、一緒に活動しようとポスターを制作。
10月21日は、乙亥会館周辺を地域の方と一緒にお掃除しました！

野村のボードゲームをつくる！

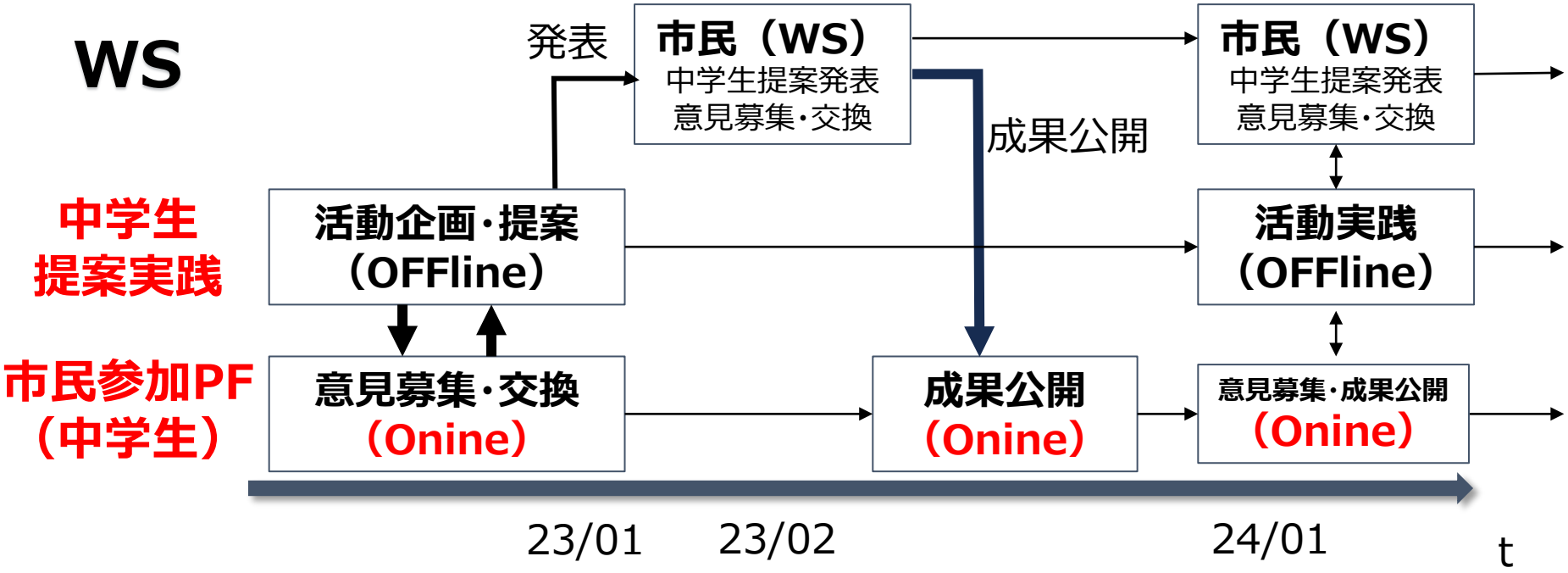
遊びながら野村を知ることができるボードゲームを作りたい！
ルール作りや盤面・コマなどを現在試行錯誤中。小学生以上を対象に野村らしいオリジナルのゲームをつくります！

ほわいとファームコラボ企画

来年再開予定のほわいとファームレストランに、ほわいとファームがプロデュースする食パン「のむラテパン」を使ったメニューを提案しようと試作中！
野村らしい、中学生のアイデアあふれるメニューを考案します！

研究方法

- 野村版のプラットフォームを開発する。開発したプラットフォーム上で野村地区の復興まちづくりに対する中学生の意見やアイデアを募集し、意見交換を行う。集まった意見やアイデアを、復興に関する市民ワークショップに報告する。



研究方法
野村町版市民参加型プラットフォーム

- 意見提案、意見交換、リアクション機能、マップ閲覧、施策への反映、整備での反映報告

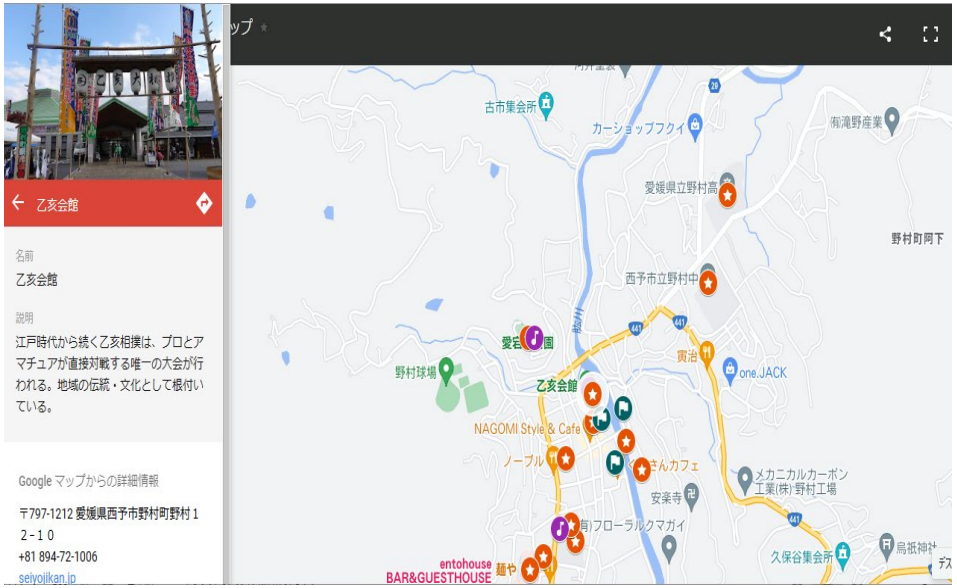
研究方法
野村町版市民参加型プラットフォーム

- のむら復興まちづくりWSの取り組みに対して、何をしたいのか等のプラットフォーム上で意見を述べてもらう。

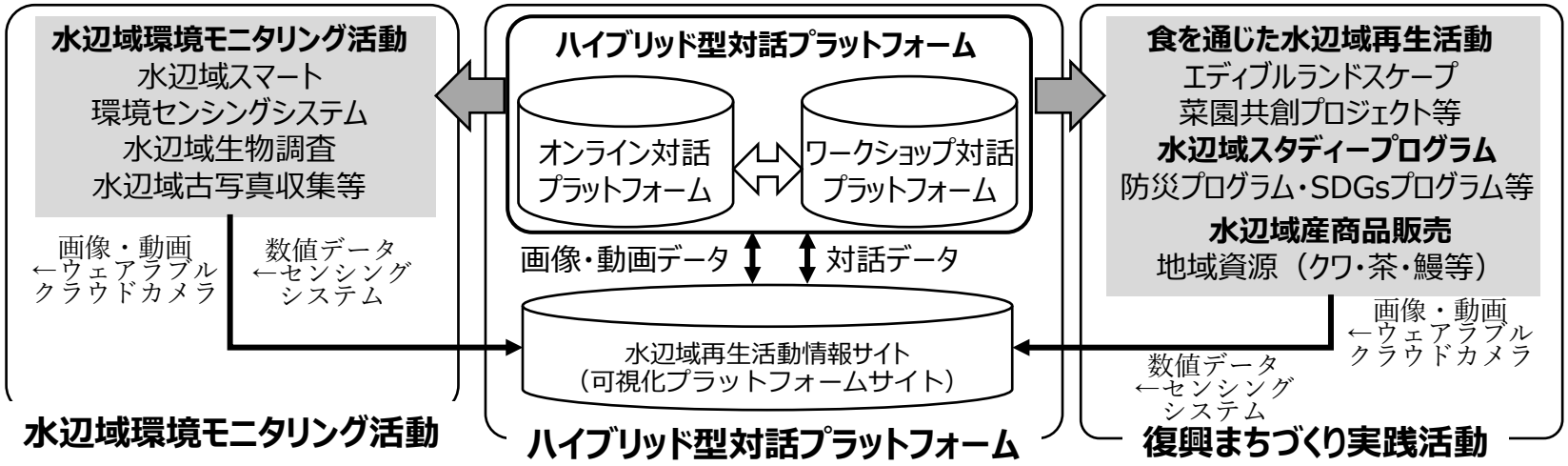
研究方法
野村町版市民参加型プラットフォーム

・コメント投稿・いいね機能

・マップ機能（見どころポイント）



研究方法
野村町版市民参加型プラットフォーム



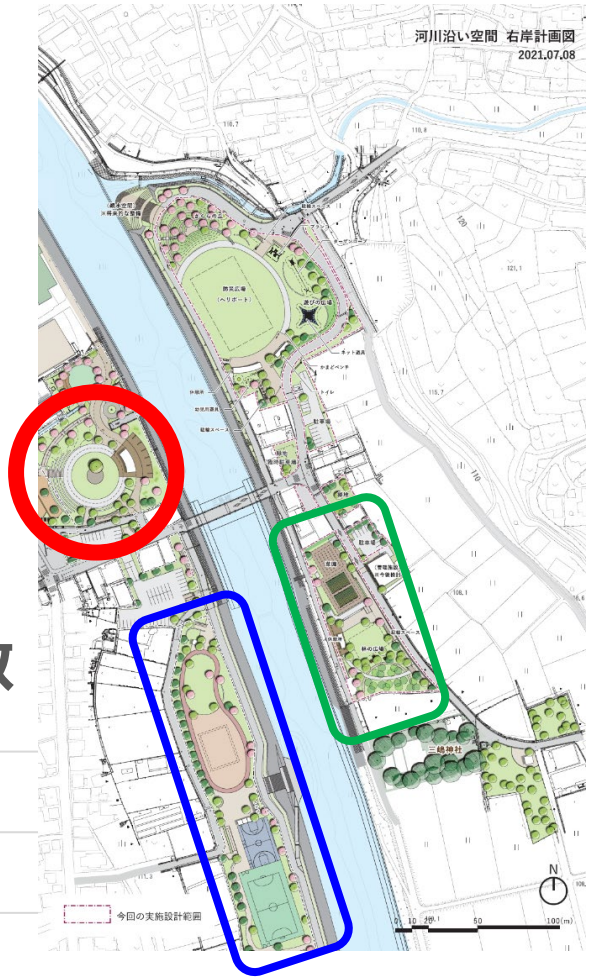
「のむらいふ」の将来構想

結果

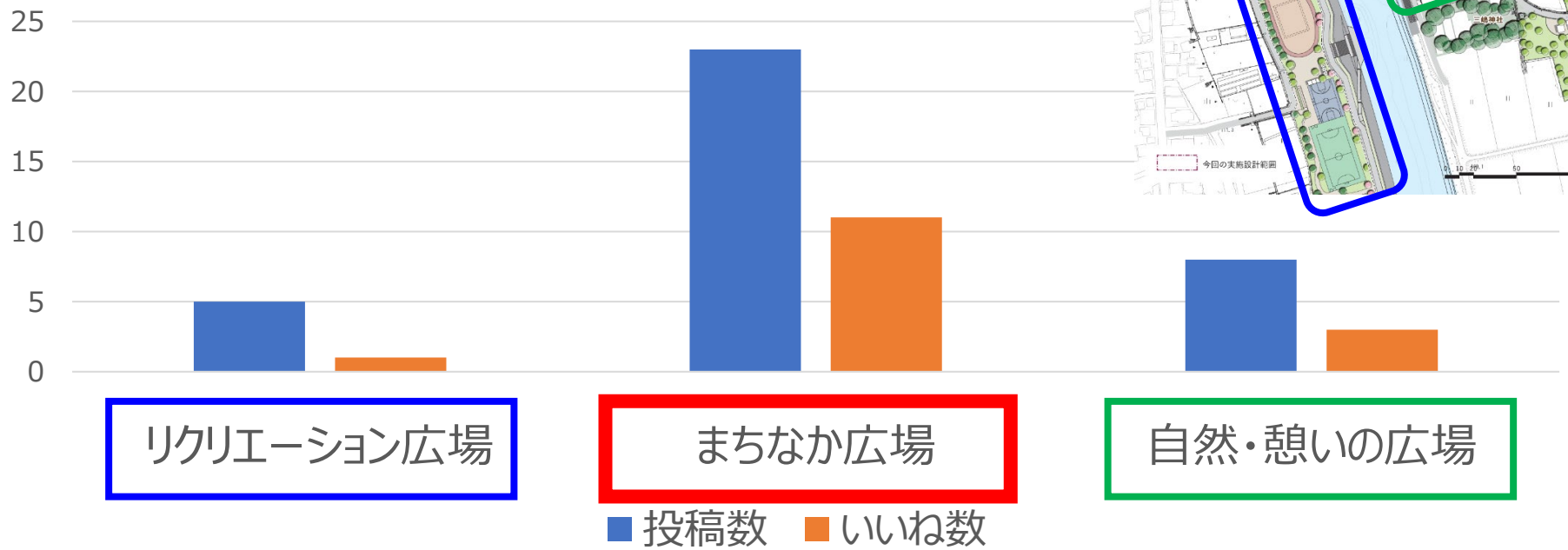
- 投稿36件、いいね15件（22/12/27～23/1/19）
- 投稿者：野村中学校の生徒、教員、その他
- 投稿例）
  - 季節関係なく幼い子供から高齢の方まで使える施設ならなんでも良いです！
  - なんでも出来るようなフリースペースがいいです
  - 野村のものづくり体験がしたい
  - 乙亥会館のお風呂の復活はないですよね？
  - INSPiのライブ・のむらのうたを披露したい！

結果

商店街に近いまちなか
広場についてのテーマに
投稿が集中している



のむらいふ投稿数といいね数



結果

- 日常的に住民参加のまちづくりが行われてきたため、投稿は多く出た（野村ならではの意見）。
- ○○が欲しいよりも○○がしたいという意見が多かった。
- これまで議論に参加できなかった層が参加できた。
- まちなか広場における議論が最も活発であった。
- 意見の投稿のみで双方向の議論はなかった。

考察

- 日常的な市民参加のまちづくりが影響している
- 中学生は空間を求めている
- プラットフォームの機能の十分な説明が必要
- 双方向の議論を行うために、サイト管理者側が議論に参加し積極的に返信を行っていく
- まちなか広場では時間のすごし方についての議論だったため意見の考えられる範囲が広く投稿しやすかったのではないか。
- 回答期限を設けていたため継続的な議論ができなかった。

導入による利点と今後課題

- 利点
  - これまで議論に参加していない層が参加している
  - 話題の幅が広がった
  - 複数のテーマを同時進行で議論できる
- 課題
  - 双方向の議論
  - 継続的な議論
  - プラットフォーム機能の十分な周知
  - デジタルツールを使うのが難しい人への対応